

みずほマーケット・トピック(2015 年 10 月 30 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。『中期為替相場見通し』は週明け 11 月 2 日(月)に発行予定です。

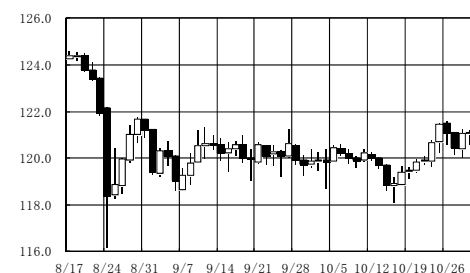
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は、揉み合い推移。週初 26 日に、121 円台前半でオープンしたドル/円は、先週末からのドル堅調地合いを引き継ぎ一時週高値となる 121.60 円まで上昇するも、ポジション調整の動きも散見されたことで、121 円を挟んでの小動きとなった。27 日も特段目立った材料もなく FOMC や日銀金融政策決定会合を控え動意の薄い展開が続いていたが、欧米株が下落する動きにリスク回避の流れが強まると、ドル/円は 120 円台前半まで値を下げた。28 日には、ドル/円は一時週安値となる 120.02 円をつける場面も見られた。注目された FOMC は市場予想通り据え置きを決定するも、声明文で年内利上げの可能性を示唆する文言が盛り込まれたことが材料視されドル買いが強まると、ドル/円は 121 円台前半まで上伸。翌 29 日は、米 7～9 月期 GDP が市場予想を下回ったことで、売り優勢地合いとなりドル/円は 120 円台後半まで下落したが、個人消費が堅調に推移していることが確認されると、121 円台前半まで買い戻された。本日にかけては日銀金融政策決定会合の結果を控え様子見ムードが強く、ドル/円は 121 円近辺で底堅く推移している。
- ・今週のユーロ相場は、週後半に下落する展開。週初 26 日に 1.10 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、先週の ECB 理事会において追加緩和が示唆されたことでユーロ売り優勢地合いが継続する中、独 10 月 Ifo 企業景況感指数の 4 か月ぶりの悪化などを背景に 1.10 台前半で上値重く推移。27 日は、ポジション調整の動きも入りユーロ/ドルは 1.10 台後半まで上昇する場面も見られたが、この水準では売り意欲も強く 1.10 台前半まで押し戻された。28 日には、ハンソン・エストニア連銀総裁の 12 月の会合では追加緩和の措置はないとの発言に、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1097 まで上昇。しかし、FOMC の結果を受けたドル買いの流れから、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0896 まで反落した。29 日は、米 7～9 月期 GDP の弱い結果を受けたドル売りや、独 10 月消費者物価指数の良好な結果を背景に ECB の追加緩和期待がやや後退する中、ユーロ/ドルは 1.09 台後半まで上昇。本日にかけてもユーロ/ドルは方向感に欠ける推移が続いている。

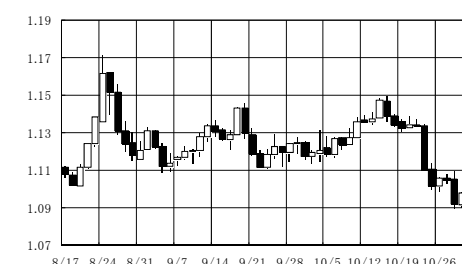
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		10/23(Fri)	10/26(Mon)	10/27(Tue)	10/28(Wed)	10/29(Thu)
ドル/円	東京9:00	120.89	121.32	120.98	120.48	120.89
	High	121.49	121.60	121.10	121.26	121.18
	Low	120.22	120.60	120.16	120.02	120.58
	NY 17:00	121.45	121.10	120.47	121.08	121.12
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1083	1.1019	1.1058	1.1033	1.0926
	High	1.1140	1.1069	1.1080	1.1097	1.0986
	Low	1.0997	1.0989	1.1030	1.0896	1.0901
	NY 17:00	1.1020	1.1058	1.1050	1.0924	1.0980
ユーロ/円	東京9:00	133.98	133.68	133.79	132.95	132.10
	High	134.26	133.90	133.90	133.55	133.06
	Low	133.38	133.15	132.74	131.97	131.60
	NY 17:00	133.78	133.85	133.02	132.24	132.97
日経平均株価		18,825.30	18,947.12	18,777.04	18,903.02	18,935.71
TOPIX		1,547.84	1,558.99	1,543.11	1,547.19	1,547.11
NYダウ工業株30種平均		17,646.70	17,623.05	17,581.43	17,779.52	17,755.80
NASDAQ		5,031.86	5,034.70	5,030.15	5,095.69	5,074.27
日本10年債		0.30%	0.32%	0.31%	0.29%	0.30%
米国10年債		2.09%	2.06%	2.04%	2.10%	2.17%
原油価格(WTI)		44.60	43.98	43.20	45.94	46.06
金(NY)		1,162.80	1,166.20	1,165.80	1,176.10	1,147.30

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、6日(金)に10月雇用統計が発表される。10月雇用統計の調査週に当たる10月第3週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で26.3万件と9月調査週の27.3万件から低下した。こうした先行指標の結果を受けて、市場では10月の非農業部門雇用者数は前月比+17.7万人と9月(同+14.2万人)からの増加を見込んでいる。27日～28日にかけて開催されたFOMCの声明文では、「次回」会合(12月17日)にて利上げが適切になるかどうか判断するとの文言が加わり、FRBが前回会合よりも年内利上げに前向きであることが示された。斯かる状況下、今回の雇用統計への注目は通常時よりも高くなると考えるが、市場予想通りに雇用の改善が見られたとしても、雇用回復の目安となる同+20万人を下回ることから年内利上げの決定打にはならないと考える。次回会合に向けて、前月マイナスとなってしまったコア小売売上高や2か月連続で減少が続く耐久財受注など見極めるべき経済指標は残っており、引き続き経済指標の結果に一喜一憂する展開は続くだろう。このほか、2日(月)に10月ISM製造業景況感指数、4日(水)10月ADP雇用統計、9月貿易収支、10月ISM非製造業景況感指数の発表が予定されている。また、5日(木)にロックハート・アトランタ連銀総裁、6日(金)にブラード・セントルイス連銀の講演が予定されており、発言内容に注目が集まる。
- ・ 欧州では、5日(木)に英中銀(BOE)金融政策委員会の開催が予定されている。前回会合(10月8日)の議事録を見る限り、今回も現状維持が決定され则认为。議事録では物価の上昇圧力は依然弱い状態にあり、2016年春先までインフレ率は目標値(+2%)を大きく下回る+1%未満に留まるとの見方が示された。実際、会合後に発表された9月消費者物価指数(CPI)が4か月ぶりにマイナス(前年比▲0.1%)となるなど、BOEの想定通り物価は上昇基調にあるとは言い難い。利上げ票を投じ続けているマクファーティ委員は相変わらずタカ派発言を繰り返しているものの、新任のブリハ委員が「インフレは下振れリスクの方が大きい」と述べるなど、委員会内では依然利上げに慎重な意見が多数派となっている。今回も利上げに係る投票結果は8対1で現状維持という結果になるだろう。このほか、4日(水)に9月ユーロ圏生産者物価指数(PPI)の発表が予定されている。
- ・ 本邦では、11月4日(水)に日本郵政グループ3社が上場する。市場の注目を集めた大型IPOであり、上場後に一時的に株価を押し上げ、為替相場に影響を与える可能性もあるだろう。このほか、5日(木)に日銀金融政策決定会合議事録要旨(10月7日開催分)の発表が予定されている。

	本 邦	海 外
10月30日(金)	-----	・米7～9月期雇用コスト指数 ・米9月個人所得・消費 ・米10月シカゴ購買部協会景気指数 ・米10月ミシガン大学消費者マインド指数(確報) ・ユーロ圏9月失業率・ユーロ圏10月消費者物価(速報)
11月2日(月)	・10月自動車販売台数	・米9月建設支出 ・米10月ISM製造業景気指数
3日(火)	休 場(文化の日)	・米9月製造業受注
4日(水)	・10月マネタリーベース	・米10月ISM非製造業景気指数 ・米9月貿易収支
5日(木)	・日銀金融政策決定会合議事要旨(10月6～7日開催分)	・米7～9月期労働生産性(速報) ・独9月製造業受注
6日(金)	・9月景気動向指数(速報)	・米10月雇用統計 ・米9月消費者信用残高 ・独9月鉱工業生産

【当面の主要行事日程(2015年11月～)】

ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(11月9日、10日)
 G20アンタルヤ・サミット(11月15～16日、アンタルヤ)
 日銀金融政策決定会合(11月18～19日、12月17～18日、2016年1月28～29日)
 ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(11月9日、10日)
 欧州中銀理事会(12月3日、2016年1月21日、3月10日)
 米FOMC(12月15～16日、2016年1月26～27日、3月15～16日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年11月)

月		火		水		木		金		週末	
2		3		4		5		6			
日本 自動車販売台数(10月) 米国 建設支出(9月) 米国 ISM製造業景気指数(10月)		日本 文化の日 米国 製造業受注(9月)		日本 マネタリーベース(10月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 貿易収支(9月)		日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(10月6～7日開催分) 米国 労働生産性(7～9月期、速報) ドイツ 製造業受注(9月)		日本 景気動向指数(速報、9月) 米国 雇用統計(10月) 米国 消費者信用残高(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月)			
9		10		11		12		13		15	
ユーロ圏 財務相会合 ドイツ 貿易収支(9月)		日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) 日本 企業倒産件数(10月) 米国 卸売売上高(9月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN)		日本 マネーストック(10月) 米国 ベテランズデー 米国 財政収支(10月)		日本 企業物価(10月) 日本 機械受注(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)		日本 鉱工業生産(速報、9月) 日本 第三次産業活動指数(9月) 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) 米国 生産者物価(10月) 米国 貿易収支(9月) ユーロ圏 GDP(速報、7～9月期) ドイツ GDP(速報、7～9月期)		G20(アンタルヤ、～16日)	
16		17		18		19		20			
日本 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)		米国 消費者物価(10月) 米国 鉱工業生産(10月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、9月) ドイツ ZEW景況指数(11月)		日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 住宅着工(10月) 米国 FOMC議事要旨(10月27～28日開催分)		日本 貿易収支(10月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(11月) 米国 景気先行指数(10月) ユーロ圏 国際収支(9月)		日本 金融経済月報(11月)			
23		24		25		26		27			
日本 勤労感謝の日 米国 中古住宅販売(10月)		米国 GDP(2次速報、7～9月期) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月) ドイツ GDP(速報、7～9月期) ドイツ IFO企業景況感指数(11月)		日本 金融政策決定会合議事要旨(10月30日開催分) 日本 企業向けサービス価格(10月) 日本 景気動向指数(速報、9月) 米国 個人所得・消費(10月) 米国 耐久財受注(10月) 米国 新築住宅販売(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月)		米国 感謝祭		日本 家計調査(10月) 日本 労働力調査(10月) 日本 全国消費者物価(10月) 日本 東京都消費者物価(11月)			
30											
日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 商業販売統計(10月) 日本 新設住宅着工(10月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(11月)											

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2015年12月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 法人企業統計(7～9月期) 日本 自動車販売台数(11月) 日本 マネタリーベース(11月) 米国 建設支出(10月) 米国 ISM製造業景気指数(11月) ユーロ圏 失業率(10月)	2 米国 ADP雇用統計(11月) 米国 労働生産性(確報、7～9月期) 米国 ペーシュブック ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)	3 米国 製造業新規受注(10月) 米国 ISM非製造業景気指数(11月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	4 米国 米雇用統計(11月) 米国 貿易収支(10月) ユーロ圏 GDP(速報、7～9月期) ドイツ 製造業受注(10月)	
7 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 消費者信用残高(10月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) ドイツ 鉱工業生産(10月)	8 日本 GDP(7～9月期、確報) 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 *企業倒産件数(11月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	9 日本 機械受注(10月) 日本 マネースtock(11月) 米国 卸売売上高(10月) ドイツ 貿易収支(10月)	10 日本 法人企業景気予測調査(10～12月期) 日本 企業物価(11月) 米国 財政収支(11月)	11 米国 小売売上高(11月) 米国 生産者物価(11月) 米国 企業在庫(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(12月)	
14 日本 短観(12月調査) 日本 鉱工業生産(確報、10月) 日本 第三次産業活動指数 ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	15 米国 FOMC(～16日) 米国 消費者物価(11月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、10月) ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 鉱工業生産(11月) ユーロ圏 貿易収支(10月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	17 日本 日銀金融政策決定会合(～18日) 日本 貿易収支(11月) 米国 経常収支(7～9月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月) ブリュッセル EU首脳会議(～18日) ドイツ Ifo企業景況感指数(12月)	18 ユーロ圏 国際収支(10月)	
21 日本 金融経済月報(12月)	22 米国 GDP(3次速報、7～9月期) 米国 中古住宅販売(11月)	23 日本 天皇誕生日 米国 耐久財受注(11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 個人所得・消費(11月)	24 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(11月18～19日開催分)	25 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 東京都消費者物価(12月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 景気動向指数(確報、10月) 日本 新設住宅着工(11月)	
28 日本 鉱工業生産(速報、11月) 日本 商業販売統計(11月)	29 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	30	31 米国 シカゴ購買部協会景気指数(12月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い？～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレイナードFRB理事のスタンス
2015年10月9日	週末版(ECB理事会議事要旨(9月2～3日開催分)～崩れるインフレ期待？～)
2015年10月8日	本邦8月国際収支統計と円相場の需給について
2015年10月7日	IMF秋季世界経済見通し～利上げ不安は高まるばかり～
2015年10月6日	「利上げの好機」を逸したか～待ちくたびれる雇用回復～
2015年10月5日	米9月雇用統計～皮肉な円安シナリオの延命も？～
2015年10月2日	週末版(外貨準備構成通貨の内訳(15年6月末時点)～中国報告開始の影響を考える～)
2015年10月1日	日銀短観9月調査～追加緩和の行方は？～
2015年9月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年8月分)
2015年9月28日	物価測度に照らしたドル/円相場の現状と展望
2015年9月25日	週末版(名目GDP600兆円への道～新「3本の矢」が目指すところ～)
2015年9月24日	欧州難民危機は統合深化の試金石に
2015年9月18日	週末版(FOMCを終えて(9月16～17日開催分)～期代論への未練がましい執着～)
2015年9月17日	日銀4～6月期資金循環統計について
2015年9月16日	判断を迫られる通貨・金融政策～株価が実質賃金か～
2015年9月15日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？～その②～
2015年9月14日	ポスト債務危機の様相を呈してきた欧州難民危機
2015年9月11日	週末版(ドル/円相場の水準感～上値と下値の目途の考え方～)
2015年9月10日	ユーロ圏経済の現状と展望及びユーロ相場について
2015年9月8日	本邦7月国際収支統計と円相場の需給について
2015年9月7日	アンカラG20を終えて～分があるのはどちらの主張か～
2015年9月4日	週末版(ECB理事会を終えて～FOMCに先手を打ったECB～)
2015年9月3日	ECB理事会プレビュー～APP延長し唆か？～
2015年9月2日	国際金融のトリレンマから読む中国の外貨準備減少
2015年8月28日	週末版
2015年8月27日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」②
2015年8月26日	混乱を受けたドル/円相場の見直し改定について【暫定】
2015年8月25日	円相場の観点で見つめ直す日経平均株価の水準感
2015年8月24日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」
2015年8月21日	週末版(FOMC議事要旨(7月28～29日開催分)を受けて～「断固たる覚悟」は見えず～)
2015年8月19日	本邦7月貿易統計を受けて
2015年8月17日	日米欧4～6月期GDPを受けて
2015年8月14日	週末版(ECB理事会議事要旨(7月15～16日開催分)について～no reason for complacency～)
2015年8月13日	人民元切り下げとそれに付随する論点～その②～
2015年8月12日	人民元切り下げとそれに付随する論点
2015年8月11日	2015年上半年における円相場の基礎的需給環境
2015年8月10日	2016年日銀金融政策決定会合日程を受けて
2015年8月7日	週末版
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状や展望について～購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～)
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳(15年3月末時点)
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について～デフォルトはメインシナリオへ～
2015年6月26日	週末版(2015年上半年を終えて～素直な政策金利相場だった上半期～)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて～実感はあるか？～
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は？
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか？
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて～舞台は首脳級へ引き継ぎ～)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて(6月16～17日開催分)
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資(TIC)レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢～考え得るシナリオや離脱後の相場～
2015年6月12日	週末版(黒田総裁発言の解釈～実質実効為替相場を考える～)
2015年6月10日	ユーロ圏1～3月期GDP(2次推計値)について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認～4月国際収支統計を受けて～
2015年6月8日	本当にFRBの早期利上げは可能になったのか？
2015年6月5日	週末版(ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退:その②～)
2015年6月4日	ECB理事会を終えて～ポラティリティ許容発言の意図～
2015年6月3日	2年ぶりの実質賃金上昇～忍び寄る交易損失～
2015年6月2日	ECB理事会プレビュー～「完全なる実施」の強調～
2015年6月1日	G7を終えて～ドル高、交差する三種の思惑～
2015年5月29日	週末版
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年4月分)
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因～従前の想定は変わらず～
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨(4月15～16日開催分)について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー～証券投資動向から占うユーロ相場～)